2階建てバスから眺めたロンドン

Kawasaki Heavy Industries (U.K.) Ltd.
General Manager, Ship Sales
藤田　正一郎

明けましておめでとうございます。ロンドンに赴任し1年、通勤は地下鉄利用ですが、週末は郊外へは車の運転もしますが、市内の移動には好んでロンドン名物の赤い2階建てバス（に混じって1階建てや1階建ての2両編成も走ってますが）を利用してます。特に最初の数カ月は、週末になると行き先も決めずにA to Z（ロンドン市内地図）を片手に来たバスに飛び乗り、A to Zと車窓から見る建物や街路名の表示を見比べながら市内を回りました。今でもしょっちゅう、2階の先頭座席にへばりついては思い切りおのぼりさんしてます。

週末に地下鉄よりバスに乗るのは、移動しながら街の中を見たいのが一番ですが、週末の地下鉄は必ずどこかの路線がengineering workを理由に休業する事情もあります。ロンドンで世界最初の地下鉄が走ったのは1863年と言いますから日本はまだ江戸末期。それから150年近くとあればあちこちガタが来て当然と言え、普段から信号故障やら何やらでよく止まります。時には特定の駅が「職員が足りない」との理由で1日休業するのには笑ってしまいます。それはさておき私の通勤路線も古い方なので週末は休業と思っておいた方が無難なのです。

古い路線ほど浅い所を走っているのは銀座線や丸の内線も同じですが、開業初期は未電化で蒸気機関車が走ったそうで、換気目的で所々青天井になっており、駅も露天が多いので、閉所が苦手な私も安心な一方、見上げたすぐそこに青空とともに密集した建物が見えると、いつトンネルが崩れるかとちょっぴりびびります。

バスに話を戻すと、その多くがきわめて狭く、意地悪く曲がりくねった（事実、古い街並みができた当時は外敵に対し意地悪してそうしたらしい）道路網の隅々までバスが走ってます。時々2階部分が街路樹の枝を引っ掛けガサガサ音を立てびっくりします。そんな狭い道にも街路樹を植えていることに感心もしますが。

バスに乗る時は所要時間を予測しにくいのは覚悟の上です。ガタが来ているのは地下鉄だけじゃなく地上も同じことであちこち掘り返してます。加えて新しいビルの建設ラッシュ（何年かぶりでロンドンを訪れる人はその変貌に皆一様に驚嘆されます）で週日、週末を問わずあちこちで片側通行や迂回路が設定され、降りるはずの停留所がえらく遠くに追いやられていたりします。バスには路線番号と主要停車地と両方表示されてますが、番号だけを確かめて乗ったら本来の終点の遥か手前で「このバスはここが終点」と告げられ慌てることもあります。

ロンドンの歩行者用信号は直進車、右左折車のいずれも来ない時のみ青になる仕組みです。歩行者の安全を考えてのことらしいですが、結果的に歩行者用信号は青の時間が赤と比べて恐ろしく短いため（加えて言うと日本のように赤に変わる直前に点滅したりせず、突然フッと赤に変わるので、とても歩行者の安全に配慮しているとは信じられません）ほとんどの歩行者は赤信号を無視し、信号がない車道を横切るのも当たり前です。自分で運転する時も歩行者の動きには神経を使いますが、図体のでかい2階建てバスの運転手さんはなおさら目配りが大変だろうと同情します。

バスの2階は1階や地下鉄電車内よりかなり賑やかです。有数の観光地でもあるロンドンで週末に2階に乗る人は大方おのぼりさんなのでしょう。英語以外の言葉も一杯飛び交ってます。そんな人達と一緒になって、まだまだ見尽くすにはほど遠い昔からのロンドンと、オリンピック開催を4年後に控えて変貌するロンドンとを、今年も2階バスの車窓から見つめてみようと思ってます。■

(右)地下鉄駅ホームでの筆者。
(下)建設現場近くを通る二階建てバス。